

# 決まりました。●お問い合わせ／市総務課総務係 ☎26-5700

## 功勞表彰



平田 羽山(誠)氏  
81歳／亀ヶ崎  
文化・芸術興隆

市立中央高等学校での31年間の教員生活で、書道教育の発展と人材の育成に努めるとともに、自ら研鑽を積み、日展など、さまざまな全国規模の書道展において、輝かしい成績をあげられました。昭和47年に自ら発起人となり、芸術文化の振興に寄与することを目的に書道教育センターを設立しました。事務局長を経て会長として後進の指導に尽力されるとともに、酒田市書道連盟の発足にも携わり、平成4年からは会長として書道文化の向上発展に寄与されました。さらに書道の研究にも精力的に取り組み、書道研究誌の発刊、庄内地区の書道文化の近現代史や古人

の作品の解説書も執筆出版するなど、長年にわたり地域の文化・芸術の興隆に大きく貢献されました。



星川 功氏  
67歳／黒森  
農業振興

昭和41年就農と同時に酒田市袖浦農業協同組合に入組し、平成14年からは同組合専務理事に就任、その後、平成17年には同組合代表理事組合長を歴任されました。その間、地域の農業生産基盤の充実や生産販売活動の改善・灌漑事業の推進など、独自性のある砂丘地農業の振興の先導役として生産組織をまとめ上げ、牽引してこられました。また大規模集落営農組織の立ち上げに尽力され、稲作部

門の大幅な合理化・効率化を図るとともに畑作部門へ労働力を集中し、新たな時代に対応した複合経営モデルを確立させました。このように地域の農業振興に寄与し、農家の生活向上に果たした活動を通して、地域の発展に大きく貢献されました。



本間 清和氏  
66歳／光ヶ丘  
保健・衛生

市立酒田病院勤務を経て、昭和60年に医院開院以来、豊富な見識と卓越した医療技術をもって、地域医療の充実に尽力されました。平成3年に酒田地区医師会理事に就任、その後、同会副会長、平成18年からは会長を歴任し、休日診療所の開設、病院の平日夜間診療への支援

などの体制強化を推進してこられました。また地域医療を担う看護師養成にも力を注がれ、市立酒田看護専門学校の設定や、集団健診事業の円滑な運営、がん検診の受診率の向上および、ピロリ菌検診の導入、さらに学校医として生徒の健康増進、衛生環境の整備など、さまざまな分野で広く活動を展開され、保健衛生の発展を通して、市政の発展に大きく貢献されました。



故佐藤 好久氏  
享年66／落野目  
住民自治

平成11年に落野目自治会長に就任し、15年以上にわたり、自治会の発展と地域の住民福祉の増進に努めてこられました。平成17年には、新堀地区の

# 平成26年度の各表彰が

平成26年度の市の功勞表彰、市民表彰、酒田市農業賞、酒田市新田産業奨励賞の受賞市の功勞表彰と市民表彰は、広く公共の福祉や市勢の発展に尽力され、功勞が特に顕著な市民生活の向上や公共的活動に尽力された方を表彰するものです。

昭和49年酒田市消防団に入団して以来、38年の長きにわたり、日夜、火災から市民生



小野 健一氏  
64歳/庭田  
消防防災

自治会長会会長に就任し、併せて酒田市地区自治会連合会理事および平成19年からは、同会会長、酒田市自治会連合会連絡協議会副会長として自治会の発展に努めてこられました。

また平成21年からは、新堀コミュニティ振興会会長、平成23年から酒田市コミュニティ振興会連絡協議会副会長を歴任し、市民の生活の向上や地域コミュニティ活動の充実に尽力されました。

さらに総合計画審議会委員や近年の小中学校の統廃合などに伴う学区改編審議会委員として長く務められるなど、市政の発展に大きく貢献されました。

活の安全・安心を守るために消防団活動に尽力されました。

同団部長就任後、自ら4回にわたり消防学校に入校し、消防操法や訓練礼式を学び、後進の指導にあたられました。

平成17年には酒田市消防団長、平成20年には消防団合併後の初代団長として、団運営の円滑化を図る一方で、時代に即した消防団を目指し、組織改革の推進などに積極的に取り組まれました。

消防設備の整備充実を図るとともに、全団員に普通救命講習受講を促し、防火指導の実施や婦人防火クラブの組織化に力を注ぐなど、地域の消防力・防災力の向上に努められ、安全・安心な地域づくりに大きく貢献されました。

## 市民表彰



阿部 忠義氏  
80歳/宮野浦  
産業振興

昭和58年酒田管工事協同組合理事に就任、その後平成8年に副理事長、翌年には理事長を平成15年まで務められ、業界のリーダーとして尽力されました。平成19年に再度理事長に推され就任し、ライフラインの整備を推進していく一方で、公園の水回り点検修理をボランティアで行うなど、地域に密着した活動も展開され、本市の産業振興に大きく貢献されました。



八柳 宏栄氏  
70歳/亀ヶ崎  
体育振興・環境美化

昭和60年から本市を舞台にして開催されるトライアスロンおしんレースの代表として、29年以上の長きにわたり企画運営に携わり、トライアスロンの普及と本市の交流人口の拡大に尽力されました。

またその舞台となる海岸線の美化活動にも視点を広げ、庄内海浜美化ボランティアを立ち上げるなど、地域の体育振興とともに環境保全活動にも大きく貢献されました。

## 市民表彰



阿部 重敏氏  
67歳／北俣  
社会福祉

平成6年民生委員・児童委員を委嘱されて以来、20年以上の長きにわたり、地域の実情把握や住民の立場に立った相談活動をを行い、地域住民の生活の安全に尽力されました。

この間、平成19年には、酒田市民生委員・児童委員協議会連合会副会長に就任し、リーダーとして連合会の発展や後進の指導にも力を注がれ、地域福祉の向上に大きく貢献されました。



阿部 和雄氏  
66歳／宮海  
水難救助

昭和55年社団法人日本水難救

済会山形県支部宮海救難所救助員に就任して以来、31年の長きにわたり、海難事故の防止と水難救助活動に尽力されました。

また平成17年からは宮海救難所長として、救難所運営にもその力を発揮されるとともに、水産、海運業の発展と海上交通の安全確保などにも活動を展開され、地域の安心安全に大きく貢献されました。



池田 義晴氏  
64歳／大島田  
消防防災

昭和54年八幡町消防団に入団して以来、33年の長きにわたり、消防団活動に尽力されました。その後、平成18年に酒田市八幡消防団長に推挙され、平成20年には消防団の統合により八幡支団長に就任されました。団員からの信望も

厚く、後進の指導育成、消防施設の整備拡充に努め、信頼される消防団づくりを注がれ地域の安全・安心に大きく貢献されました。



万里の松原に親しむ会(団体)  
会長／三沢英一氏  
森林保全・環境教育

平成13年の設立当初から、生活環境保全林「万里の松原・松陵地区」約60ヘクタールの美林を守り、保安林としての機能保全を図るとともに、市民の憩いの場として森林空間の整備に努めてこられました。

また森の音楽祭や自然観察会を開催するとともに、近隣の小中学校・高校での森林環境教育を主催するなど、森林保全活動のみならず、地域や学校と連携した活動を通して、環境保全や教育活動へ大きく貢献されました。

## 酒田市農業賞

初代酒田農業協同組合長伊藤惣治郎氏の遺志により遺族から寄付された伊藤農業振興基金をもとに制定されたもので、農業振興に積極的に関わり、他の模範となる個人または団体を表彰するものです。



石川 敏行氏  
61歳／中野目

水稻の規模拡大と良質米の生産に力を注がれるとともに、地域営農の中心的な存在として受託者組織の育成や農業生産性向上を実践してこられました。

特に、特別栽培米のグループ「平田げんげんの会」のリーダーとして、良質米生産と首都圏への販路拡大などに努められました。また農業関係の要職を歴任





された中で、県指導農業士や平田島海南麓営農対策協議会会長の要職にも就かれ、本市農業の振興と発展に多大な貢献をされました。



阿部 博明氏  
60歳／広岡新田

良質米の生産と枝豆などの園芸品目を取り入れた複合経営に力を注がれるとともに、水稻の規模拡大と園芸を取り入れた営農モデル実践者として地域を牽引し、農業関係の要職を歴任されました。

また酒田市農業委員の要職にも就かれ、農地の利用集積などで成果を挙げられるとともに、農協、生産組合と連携して有利性の高い米への品種誘導と直接販売体制を築き、本市農業の振興と発展に多大な貢献をされました。

## 酒田市新田産業奨励賞

株式会社平田牧場と株式会社平牧工房から寄付された新田産業振興基金をもとに制定されたもので、本市の産業振興に貢献し、他の模範となる団体を表彰するものです。



庄内酒彩倶楽部  
会長／池田吉伸氏

地元の食材を生かした特産品開発や地域の活性化を目的に、市内の酒販店7事業所で結成した任意団体です。刈屋梨を使ったワイン「梨のミューズ」「梨のデアノイエ」などの商品を企画し、規格外の梨を生産者が販売できるようになり、さらにブランド梨の知名度向上にも寄与し、生産者が潤う積極的な農工商連携の先進事例となっています。また幻のじゃがいもといわ

れ復活した飛鳥特産のジャガイモ「ごどいも」を使った本格焼酎の企画販売は、地域社会への貢献度も高く離島振興の取り組みとして期待されています。

本来は競合する同業者同士が連携し、知恵を出し合い共同でオリジナル商品を開発することで、市場での競争力を高め、農産物の知名度向上も図られています。

地元の素材にこだわった商品づくりを通して地域経済活動の発展、地域の活性化に大きく寄与しており、他の模範となるその取り組みは市の産業振興に大きく貢献するものです。



新栄水産 有限会社  
代表取締役／高橋精一氏

沿岸漁業者の高齢化、漁獲量の減少などが課題となっている

中で、低利用・未利用の水産資源を活用した付加価値のある加工品の開発に力を注いでこれら、生鮮の卸売り事業に加えた加工食品事業へ展開を図り、近年未利用のアミエビを原料として、魚醤「あみえび醤油」を開発、商品化しました。

漁業者にとって漁の薄くなる時期にアミエビの漁期があり、比較的高齢者でも漁が可能な水産物であるため、漁業者の収益源の拡大が図られるとともに浜の活性化に寄与しています。

また経済産業省の「農工商等連携事業」の認定を受け関連商品の開発とブランド化事業を展開しており、うま味成分の優れた特徴を生かした魚醤油は、さまざまな料理に利用される商品力を持ち、地域ブランド力の向上、日本の大切な魚食文化の保持にもつながり、市の産業振興に大きく貢献するものです。